

### (3) engawa style : 東洋大学工学部建築学科 TEAM すがも

私達は現在までワークショップや見学等をくり返し、巣鴨の街を内と外の両側面からつかみ取ることを考えてきました。そのなかで、巣鴨の魅力や雰囲気に見い出され、この“巣鴨地蔵通り商店街”のもつ地域のポテンシャルを実感しました。

現在都市は急速に変化を遂げ道路整備や建築の高層化が進み、それに伴った弊害は図り知れないものとなってきています。そんな中、巣鴨の街が持つ地域のコミュニティや縁日の雰囲気は都心部に残る貴重な財産です。そのような商店街を現在のまま残していきたいという皆様の気持ちは新たなものの創造を拒むかのようでもありました。それは私達建築学科の学生にとって非常に難しい問題でもあり、それを含めて計画することは今までにないリアルな課題です。

そこで私達は現状の問題点を踏まえ、地域のコミュニティを生かせる建築的な空間を提案します。

#### コンセプト

##### ・地蔵通り入口部分の三角地の計画

都市計画が進むと国道17号線沿いは新たな高層建築や商業テナントの進出で様変わりしてしまうことが考えられます。昭和の面影を残す商店街と新たな街との分岐点、そこが計画地になります。

計画地にはそれを踏まえた新旧の建物の融合を図ります。現在まで人々の生活に根付いてきたスケール(日本の伝統建築)と新たな都市のスケール(パーゴラ)各々が混在し、形成される場は分岐点としての計画地の場所性を踏まえたあり方です。

##### ・必要とされている公衆トイレの計画

公衆トイレは現在高岩寺の裏方のみとなり必要性があります。

新たな公衆トイレとして、認識しやすく、清潔で使いやすい。そして、バリアフリーやユニバーサルデザインといった使用者を選ばない場をつくります。

##### ・休憩所の計画

比較的高齢者の方々が多く訪れることで休憩所の計画も必要となってきます。

そこで、8畳間と縁側を含んだ日本の伝統建築の一部がそのまま、休憩スペースとなります。縁側の文化にな親しんだ人々は違和感なく腰をかけて休むことができ、時には靴をぬいで、畳の上でゆっくりすることもできます。

##### ・縁日の舞台の計画

縁日で催される様々なイベントは巣鴨の大きな魅力のひとつです。

しかし、現状ではその為の舞台やスペースが確保しきれない面もあります。

通りの入口で和太鼓を叩く子供達の姿は、鶯鴨の文化を次世代に繋ぐものです。そのような時は休憩所は舞台として使用されます。

8畳の畳と縁側を含めたわずかな部分でも舞台としての役目は十分にあります。

通りの入口は文化の発信基地としての役目も担うことができます。

以上のコンセプトを踏まえて私達は計画地に木造、RC造、鉄骨造で、各々に休憩室、トイレ、パーゴラで構成される建築的空間を提案します。